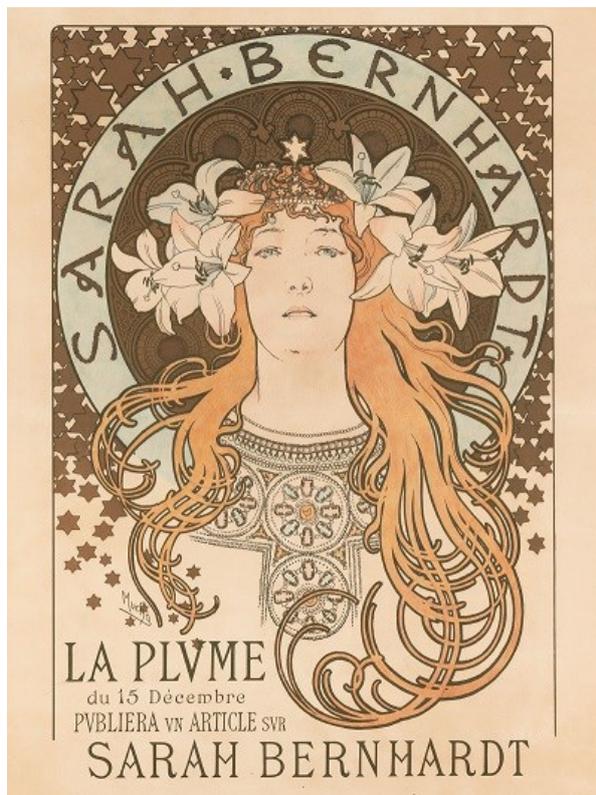


パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展

The World of Sarah Bernhardt, Luminary of the Belle Époque

2019年12月7日(土)～2020年1月31日(金)

※会期中、一部展示替えあり



割引サービスあります！

★リピーター割引

有料の入館券の半券を、観覧日翌日以降の会期中にご提示いただければ、通常料金から2割引きでご入館できます。同一半券の提示は1回限り有効です。ご提示いただいた半券は回収いたします。

★クリスマス割引

12月24日(火)、25日(水)にご来館いただいた方にかぎり、通常料金の2割引きでご入館できます。

※割引の併用はできません

①アルフォンス・ミュシャ《サラ・ベルナール》1896年
リポリアンティークス蔵

◆ 展覧会概要

フランス出身の女優、サラ・ベルナール(1844*-1923)は、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて活動しました。パリで女優として成功を収めた後は、ヨーロッパ諸国やアメリカなどフランス国外にも活躍の場を広げました。また、自らの一座を立ち上げ劇場経営にも携わったほか、アーティストとして彫刻作品の制作を行うなど、生涯にわたって幅広い活躍を続けます。

サラは画家アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)や宝飾デザイナーのルネ・ラリック(1860-1945)など、若き芸術家たちの才能をいち早く見出し、パトロンとしてその活動を庇護したことでも知られています。このようにサラはのちにアール・ヌーヴォーの旗手となる芸術家たちが大成する素地を作っただけでなく、そのデザインの成立にも深く関わった人物であったことがわかります。

本展は、サラの人生を当時の貴重な写真や肖像画、舞台衣装や装飾品のほか、ミュシャやラリックによる作品をもとに通覧する、日本初の展覧会です。また、彼女が生きたベル・エポックの時代に制作された華やかなポスター作品なども展示し、サラ・ベルナールの世界を多面的にご紹介します。

*サラの生年については諸説ありますが、本展では1844年に生まれたとする説を採用しています。

◇ 展覧会構成

第1章 サラ・ベルナルルの肖像

一女優、時代の寵児として

サラ・ベルナルルは、1862年に国立劇場コメディ＝フランセーズでデビューを果たしました。その後はオデオン座に移籍し、着実に女優としてのキャリアを積みました。1872年に出演したヴィクトール・ユゴーによる戯曲『リュイ・ブラス』での演技が高く評価されます。ユゴーから「黄金の声」と言わしめた彼女は国民の人気を獲得し、後にジャン・コクトーから「聖なる怪物」と称されたとされます。

サラは、画家たちにインスピレーションを与えるミューズでもありました。トゥールーズ＝ロートレックや、親友のルイズ・アベマとジョルジュ・クレラン（両者はサラの恋人でもあったとも言われる）らは、女優として成功を収めた華やかなサラの姿を数多く描いています。

本章では、サラのプライベートや舞台姿をとどめた写真や絵画、そして実際に身に付けたドレスや装飾品などから、彼女の生きた足跡をたどります。



③ルイズ・アベマ《サラ・ベルナルル》1909年 エタンブ市美術館蔵



②C.W.ダウニー《街着姿のサラ・ベルナルル》1902年 個人蔵

第2章 パトロンとしてのサラ・ベルナルル —ミュシャ、ラリックとの関係

1895年の年明けに、当時は無名の若手芸術家であったアルフォンス・ミュシャが手掛けたサラ主演の『ジスモンダ』の公演ポスター（本展出品）が街に貼りだされました。このポスターは大人気となり、ミュシャの名を広く知らしめることとなります。サラと6年間の専属契約を結んだミュシャは、その後も次々とサラ主演の公演ポスターを制作しました。

ルネ・ラリックもサラにその才能を見出され、庇護を受けた人物です。1891年もしくは1894年にラリックはサラと知り合います。当時、フリーランスの宝飾デザイナーとして独立し、若手ながら存在感を示していたラリックですが、サラがプライベートや舞台上で彼の装飾品を身に付けたことで、より世間の注目を集めることになりました。



このようにサラは、ミュシャとラリックという時代を代表する芸術家に、名声を与えるきっかけをつくり、パトロンとして庇護しました。本章では、ミュシャとラリックがサラのため、もしくは彼女をモチーフとして制作した作品を通して、彼らの交流をご紹介します。

④デザイン：アルフォンス・ミュシャ／制作：ルネ・ラリック《舞台用冠 ユリ》1895年 箱根ラリック美術館蔵

第3章 サラ・ベルナルルとその時代—ベル・エポック

サラが活動した当時のフランスは「ベル・エポック（良き時代／美しき時代）」と呼ばれる華やかな時代でした。それはポスター芸術の黄金期でもありました。カラー・リトグラフの技術的進歩によって、人々の目を惹きつける魅力的な大型ポスターが街中を飾り、カフェや劇場、舞踏会、様々な商品など、都市での新しい生活様式や娯楽を宣伝し、人々の欲望を掻き立てたのです。

本章では、サラが生きたベル・エポックの享樂的で華麗な雰囲気伝える、ポスター作品やラリックによる工芸品および装飾品をご紹介します。

第4章 サラ・ベルナルル伝説

サラは、1880年に自らの名を冠した「サラ・ベルナルル劇団」を立ち上げ、1899年にはパリ市立劇場を借り上げて「サラ・ベルナルル座」とするなど、興行主であり監督兼俳優としての地位を不動のものとしていきました。さらには精力的に海外公演を行い、国際的な大女優のさきがけとなっただけでなく、著作の出版や、芸術家として彫刻を制作するなど多様な分野で活躍しました。

その名声が高まるとともに、サラのイメージは多くの商品や広告に用いられるようになります。こうしてサラは人々の記憶に深く刻まれていったのです。

左：⑤アルフレッド・クラレー《白粉「ディアファーンヌ」》1890年頃 ダニエル・ラドウィユ・コレクション

右：⑥アルフォンス・ミュシャ《ジスモンダ アメリカツアー版》1895年 リボリアンティークス蔵



◇会期中イベント

◆ 特別講演

「新しい芸術と社会を切り拓いた女性—サラ・ベルナールの華麗な世界」

講師：岡部昌幸氏（本展監修者、帝京大学文学部史学科教授、群馬県立近代美術館館長）

12月21日（土）午後2時～（約1時間30分） 地下2階ホール ＊定員80名

* 午後1時30分から整理券配布 ＊無料（要入館料）

◆ 連続特別講座

いずれも午後2時から約1時間 地下2階ホール ＊各回定員80名

* 無料（要入館料） ＊当日午後1時30分から整理券配布

①「メディアの寵児・パトロンとしてのサラ・ベルナール」

1月11日（土） 講師：西美弥子（本展担当学芸員）

⑦ジャック・ドゥーセ《イブニングドレス》
19世紀末 個人蔵



②「19世紀フランスにおける社会生活と創作世界の異性装」

1月26日（日） 講師：新實五穂氏（お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系准教授）

◆ ミュージアムコンサート「サラ・ベルナールに捧ぐ」

《別れを告げるアラビアの女主人 *Adieux de l'hôtesse arabe*》（作曲：G. ビゼー、作詞：V. ユゴー）や《エンパイア劇場の歌姫 *La diva de l'empire*》（作曲：E. サティ、作詞：D. ボノー／N. プレス）など、サラの時代のフランスを感じる曲目多数！

出演：鈴木雅美（ソプラノ）、原田園美（ピアノ）

12月22日（日）午後4時～（約1時間） 地下2階ホール ＊定員80名（応募者多数の場合は抽選）

* 無料（要入館料） ＊ 要事前申し込み：「コンサート」係まで。12月11日（水）必着。

◆ feltico すかし百合のブローチづくりワークショップ

サラが『遠国の姫君』で身につけた冠にあるユリをモチーフに、布花のブローチを作しましょう！

おしべの色を赤と黄色から選ぶことができます。

講師：feltico 麻生順子氏（羊毛花作家）

1月25日（土） ①午前11時～／②午後2時～（各回約1時間30分） 地下2階ホール

* 各回定員15名（応募者多数の場合は抽選） ＊材料費：3000円（要入館料） ＊対象：小学校4年生以上

* 持ち物：工作用のはさみ、筆記用具 ＊ 要事前申し込み：「ワークショップ」係まで。1月7日（火）必着。

事前申し込みは往復はがき、またはメール（event@shoto-museum.jp）にて

* 迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に@shoto-museum.jpドメインより受信できるようにしてください。

〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、各イベント係まで。1通につき1名まで申込可能。

* 「ワークショップ」は参加希望時間帯および希望のおしべの色（赤と黄色から1色を選択）をご記入ください。

◆ 学芸員によるギャラリートーク

12月13日（金）、1月5日（日）、18日（土）

各日午後2時～ 約40分

* 無料（要入館料）

* 事前予約の必要はありません

◆ 館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

会期中、毎週金曜日（ただし1月3日をのぞく）

午後6時～ 約30分間

* 無料（要入館料） ＊各回定員20名

* 事前予約の必要はありません

◇開催概要

展覧会名	パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展 <i>The World of Sarah Bernhardt, Luminary of the Belle Époque</i>
会期	2019年12月7日(土)～2020年1月31日(金) ※会期中一部展示替えあり
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
入館料	一般500円(400円)、大学生400円(320円)、高校生・60歳以上250円(200円)、 小中学生100円(80円) *()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝休日は小中学生無料 *毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料
休館日	月曜日(ただし、1月13日は開館)、12月29日(日)～1月3日(金)、1月14日(火)
主催	渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
後援	在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
特別協力	フランス/エタンブ市美術館、ピエール＝アンドレ・エレーヌ、ダニエル・ラドウィユ 日本/堺 アルフォンス・ミュシャ館(堺市立文化館)、箱根ラリック美術館、 京都工芸繊維大学美術工芸資料館、リポリアンティークス
運営協力	「サラ・ベルナールの世界展」実行委員会
企画協力	株式会社燦京堂
助成	笹川日仏財団
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 HP: https://shoto-museum.jp

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
- JR・東京メロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

◇次回展のご案内

サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」

2020年2月12日(水)～2月24日(月・休)/2月29日(土)～3月15日(日)

2020 松濤美術館公募展

2020年2月12日(水)～2月24日(月・休)



報道関係のお問い合わせ

広報担当: 西・木原(pr-sma@shoto-museum.jp) 展覧会担当: 西(nishi@shoto-museum.jp)
平泉(hiraizumi@shoto-museum.jp)

電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。 * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとしてください。 * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。